

Ⅲ 共同利用研究

1. 概要

昭和52年度共同研究の公募は、「Ⅰ. 研究課題」と「Ⅱ. 研究会課題」とに大別して行なわれ、前者については、かねてよりそれら課題の多くが、開始されてからすでに6~7年経過しており再検討すべき時期であるとの指摘を所の内外から受けていたため、新規に4課題を設定し、少なくとも数年間継続して行なうこととした。なお、それらに該当しない研究のため自由課題が並列して設けられた。

Ⅰ 設定課題「群れの統合機構に関する研究」

ニホンザルの群れは、どのような社会機構によって統合されているのかという問題を、広範な視点より研究し、従来の社会構造論を再検討し、新たな社会構造論の構築をめざす。

スペーシング、グルーピング、リーダー・フォロワー関係、血縁関係、順位の成立と構造、性・年齢による社会的役割、オスとメスの生活史、コミュニケーション、カルチャー等、さらにオスとメスの群れからの移出入、コミュニティに関する問題等が研究対象となる。

Ⅱ 設定課題「各環境構造における霊長類の適応機序の解明」

霊長類には多様な適応・放散がみられるが、各環境構造との対比において、霊長類の適応の機序を解明しようとするものである。

本課題においては、環境利用と生活様式、群れの遊動の様式、個体群動態、ロコモーション様式、地域個体群の諸特性、温度適応等に関する生理学的研究等のテーマが考えられ、これらのテーマを霊長類の生態学・形態学・生理学的手法を用いて、野外及び実験室において広く追究する。

Ⅲ 設定課題「霊長類の生殖と成長・発達」

個体が成熟する過程でみられる諸変化を、成長・発達の観点から総合的に追究する。例えば、身体の成長・発育、行動の発達、神経系の発達、性周期、生殖および周産期等の問題をとりあげる。

Ⅳ 設定課題「霊長類の系統・種分化・種の特性に関する研究」

霊長類の系統や種の諸特性を明らかにし、さらに種分化の諸機構を分析する。系統や種の同定と分化機構

の形態学的分析、種内の集団構造や地域集団間、あるいは種間の系統的相互関係を解明する社会学的および遺伝学的研究、生体成分の構造・機能・代謝系を解明する生化学的研究などを行なう。

V 自由課題（設定課題に含まれない研究）

これらの研究課題について50件（106名）の応募があり、共同利用研究実行委員会（鈴木 晃、室伏靖子、小山直樹、久保田 競、野上裕生）による予備手続の上、運営委員会（52年2月15日）の審議によって、33件（64名）が採択された。各課題についての応募・採択状況は次のとおりである。

課題	応募	採択
I	5件 (13名)	4件 (11名)
II	10件 (24名)	7件 (18名)
III	6件 (16名)	4件 (11名)
IV	7件 (10名)	6件 (6名)
自由課題	22件 (43名)	12件 (18名)

研究会課題に関しては、公募に際して従来からの研究会をも含めて設定課題ごとに対応する研究会に整理統合できるかどうか検討願った。

この結果運営委員会の議を経て、次の5件が採択された。

1. 課題Ⅰ「群れの統合機構に関する研究」
— 霊長類におけるメスの生活史 —
2. 課題Ⅱ「各環境構造における霊長類の適応機序の解明」
— 志賀C群について —
3. 課題Ⅲ「霊長類の生殖と成長・発達」
— 生殖・成長・発達の研究における基本的問題と将来への展望 —（第1回）
— 生殖・成長・発達の研究“ニホンザルの資料の分析” —（第2回）
4. 課題Ⅳ「霊長類の系統・種分化・種の特性に関する研究」
— Speciation を中心として —
5. 「第6回ニホンザルの現況研究会」
— ニホンザルの分布と保護 —

（久保田）